

社会全体の幸福 探る

弘大「ウェルビーイング」開所

開所を祝いテープカットするカワチ氏(左から2人目)、福田学長(同3人目)ら



弘前大学は12日、弘前市の本町キャンパスに整備した「グローバルWell-being(ウェルビング)総合研究所」の開所式を行った。関係者は、心身の健康や社会全体の幸福の実現を目指すウェルビーイング研究が、研究所を拠点に一層進むことに期待を寄せた。

弘大は2024年度、文部科学省の「地域中核・特一業(J-PEAKS)」に採択され、研究の中核拠点整備を進めてきた。研究所では、岩木健康増進プロジェクトで蓄積した健康ビッグデータの解析や、新たなQOL健診の開発を推進。研究成果を国内外へ広く発信し地域活性化につなげる。来年春本格稼働する。

式典には眞内外の大学関係者、共同研究を行う民間企業関係者ら約100人が出席。福田真作学長が、国内の知を結集し研究成果を社会に還元し、地域に貢献したい」とあいさつ。石橋恭之・総合研究所長は「広い視野で社会課題の解決に取り組む」と意気込みを語った。式典後、記念シンポジウムが文京キャンパスの創立50周年記念会館で行われ、同研究所の最高顧問に就任した米ハーバード公衆衛生大学院教授のイチロー・カ

来春本格稼働 心身の健康サポート

弘前大学は12日、弘前市の本町キャンパスに整備した「グローバルWell-being(ウェルビング)総合研究所」の開所式を行った。関係者は、心身の健康や社会全体の幸福の実現を目指すウェルビーイング研究が、研究所を拠点に一層進むことに期待を寄せた。

(菊谷賢)

弘大は2024年度、文部科学省の「地域中核・特一業(J-PEAKS)」に採択され、研究の中核拠点整備を進めてきた。研究所では、岩木健康増進プロジェクトで蓄積した健康ビッグデータの解析や、新たなQOL健診の開発を推進。研究成果を国内外へ広く発信し地域活性化につなげる。来年春本格稼働する。

式典には眞内外の大学関係者、共同研究を行う民間企業関係者ら約100人が出席。福田真作学長が、国内の知を結集し研究成果を社会に還元し、地域に貢献したい」とあいさつ。石橋恭之・総合研究所長は「広い視野で社会課題の解決に取り組む」と意気込みを語った。式典後、記念シンポジウムが文京キャンパスの創立50周年記念会館で行われ、同研究所の最高顧問に就任した米ハーバード公衆衛生大学院教授のイチロー・カ

フチ氏が、社会全体の幸福度を高めるためには、所得格差を縮小することが鍵を握る」と説明。「人と人とつながりや助け合い、精神的なサポートをより強くすることも重要だ」とも語った。

千葉大学の近藤克則名誉教授は、社会参加や交流を

生み出す街づくりを通じた

ウェルビーイング実現の必

要性を語った。東京科学大

の藤原武男教授は、不確実

な時代に生きる子どものウ

エルビーイングについて意

見を述べた。シンポには約

200人が参加し、オンライン

で約500人が視聴した。